

人間発達学部

子ども発達学科教授 星野 英五

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
	2010. 5. 22	日本保育学会第63回大会 松山東雲女子大学	本学において四年制大学学生は短大部と比較して、理論と実践が密接に関係することを把握しにくく、1年次は実践を遠い存在に捉えてしまうことが分かった（2008）。本学部は短大部から四年制に移行して3年目を迎える。保育者・小学校教諭免許資格を同時所得する現状から、3年次学生に音楽意識調査を行う。その結果を比較検討し、保育者希望と小学校教諭希望の学生の確固たる授業展開の基盤を整えるものである。
幼児小の連携に即した授業の考察 —保育者希望と小学校教諭希望の音楽意識の違いから—	2011. 3 発行	名古屋芸術大学研究紀要第32巻	2007年4月に開設された人間発達学部子ども発達学科は、2010年度で完成年度を迎えようとしている。本学部は、他大学同系列の学部にはない芸術的環境のもとで高い音楽意識を備えた学生を養成することを目的としている。今回の調査では保育者（幼稚園教諭・保育士）・小学校教諭免許資格を同時取得する学生が多い現状から、3年次学生に音楽意識調査を行う。その結果を保育者希望と小学校教諭希望に分け比較検討し、どのような授業を実施したら芸術的環境を活かした本学部の特徴を発揮できるかを考察するものである。本稿は日本保育学会第31回大会で発表したものをさらに内容を深めたものである。
子どものコンピュータ表現活動 —小学校と幼稚園の活動との比較から—	2010. 9. 3	全国大学音楽教育学会第26回全国大会 広小路ヤマハホール	本学附属クリエ幼稚園でのコンピュータ表現活動は12年目を迎える。描画と音楽作りの活動を通して、幼稚園児が自己表現をする一つの手段としてコンピュータ活動を位置づけようと試みている。今回は、幼小連携を踏まえ小学校1・2年生を対象に幼稚園児と同じ方法でコンピュータ表現活動を行い、年齢の差で取り組み方の変化がどのようにあるのか両者を比較する。 小学校1・2年生においてはこの活動が、音楽に関する感性を育てる一つのツールと位置づけられるであろうか。コンピュータを通して多様な音に触れることで音楽作りのための様々な発想を引き出し、音楽を楽しみ表現することにつなげたい。
「春を呼ぶ文化芸術交流祭」 教員演奏	2011. 3. 4	名古屋芸術大学東キャンパス3号館音楽ホール	リスト作曲・愛の夢第3番 ショパン作曲・子犬のワルツ op.64-1を演奏

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項
---------------------------	-------------------

授業科目 音楽実技2 (伴奏法)		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に必要な音楽理論を伴奏法に結びつけ資料作りを行った。また、移調奏や編曲に音楽ソフト FINALE を有効に利用した。さらに、8 ビートや 16 ビート等のリズム習得に電子ドラムを活用し、多岐に渡る音楽に対する興味を学生に持たせた。		
授業科目 音楽環境デザイン		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
絵本や紙芝居の読み聞かせの時に、音楽ソフト Protools を活用し、効果音やバックミュージック作成・作詞作曲を学生自身の感性に任せて行った。学生の作品を大型プロジェクターを使用し、「春を呼ぶ文化芸術交流祭」で発表させた。		

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
全国大学音楽教育学会	2002 年～現在に至る	会員
日本保育学会	1998 年～現在に至る	会員
日本音楽教育学会	2009 年～現在に至る	会員
全国保育士養成協議会	2008 年～現在に至る	中部ブロック幹事
愛知県現任保育士研修運営協議会	2010 年～現在に至る	常任委員